

肝・肝内胆管の悪性腫瘍の肝切除術施行患者における抗菌薬 3 日以内中止率

測定対象

《分子》 分母のうち、手術当日から数えて 4 日目に、抗菌薬を処方していない患者数

《分母》 肝・肝内胆管の悪性腫瘍で肝切除術を施行した退院患者数

結果

| | | | |
|---------|--------|---------|--------|
| 2019 年度 | 84.6 % | 2018 年度 | 96.4 % |
|---------|--------|---------|--------|

肝・肝内胆管の悪性腫瘍の肝切除術施行患者における手術部位感染予防のための抗菌薬遷延率

測定対象

《分子》 分母のうち、予防的投与後（手術当日から数えて 4 日目以降）も抗菌薬を 7 日以上連続で処方した患者数

《分母》 胃の悪性腫瘍手術を施行した退院患者数

結果

| | | | |
|---------|-------|---------|-------|
| 2019 年度 | 2.6 % | 2018 年度 | 0.0 % |
|---------|-------|---------|-------|

抗菌薬分析

2018 年の同手術は 43 件、2019 年は 45 件行っており、手術症例数に大きな変動はありませんでした。抗菌薬投与期間は術後の患者状態により様々であり、発熱状態や炎症反応の推移により抗菌薬投与期間延長を要した患者は 8%(3 名)でした。この間の術後合併症数は大きく減少していたことから(CD \geq 3a; 2018 年 12 名 27.9%→5 名 11.1%)適切な抗菌薬の使用はできていると判断しています。2019 年の抗菌薬の中止率がやや低下しているのは、患者の状態が影響したものと考えられます。